

## ウルマーシマトビケラ

*Hydropsyche ulmeri*

シマトビケラ科



ウルマーシマトビケラの幼虫

(撮影：宮下 力)

## 名前の由来

ウルマーとはドイツの昆虫学者である。シマは縞でオオシマトビケラの翅に縞模様が見られるためか？トビケラの由来は不明。漢字名：ウルマー縞飛虻

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類  
ワシ(タカ) 樹林

## 形態的特徴

**幼虫の特徴：**体長約14mm、頭幅は約1.1~1.4mm。腹部背面の刺毛は棒状で、腹面に分枝した鰓が多数見られる。頭部側面の淡色斑は後頭部まで伸びないか、幅が狭くなる。

幼虫は固着巣（動かせない巣）と餌を濾しとる網を作る。

**成虫の特徴：**体長5~6mm、翅開張18~20mm。体は黒褐色で、腹部は褐色。触角は細く黄色で各節に黒線がある。前

翅には、灰黄色と褐色毛が混成して密に生えて、網状紋をつくる。後翅は半透明で暗色。

**類似種と見分け方：**シロズシマトビケラ。

ウルマーシマトビケラの頭部の地色は褐色で、シロズシマトビケラは黄褐色。

## 生息環境・分布

上流から中流の浮き石。

**分布：**国外分布は、沿海州・朝鮮半島。国内分布は、日本全土。北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。



ウルマーシマトビケラの成虫

(撮影：宮下 力)

## 食性・他の生物との関わり

流下してくる有機物全般を捕獲網でとらえ摂食する。魚類などの餌となる。

## 繁殖生態・寿命

不明。

## 興味深い話

- シマトビケラ科の中でもよく見られる代表的な種である。
- 水力発電所の流速を巣により低下させ、発電害虫となる場合がある。
- 幼虫頭部の両頬には発音器があり、発音することで他個体の侵入から防衛することが判明している。
- 十勝地方のアイヌ語ではトビケラ類幼虫を「ウォルンカムイ」という。

## 配慮事項

捕獲網を張るための礫の維持が重要である。



シマトビケラの仲間の巣と捕獲網



シマトビケラの仲間のコガタシマトビケラ。環境省・国交省水質調査の「少し汚い水」の指標

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
卵期・幼虫期	■								■				
成虫期							■						

## 参考文献

「アングラーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力 出版文化社 2000  
 「水辺の昆虫」今森光彦 山と溪谷社 2000  
 「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「原色川虫図鑑」谷田一三 全国農村教育協会 2000  
 「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976